

令和2年度 卒業証書授与式 式辞

記録的に早い開花が宣言され、校庭の桜の花が次々と咲き始めている今日、海田町教育委員会教育長職務代理者 林 孝様、生涯学習課長 脇本健二郎様、主幹 山光 誠司様、そして、多くの保護者の皆様にご臨席を賜り、令和2年度海田町立海田東小学校卒業証書授与式を挙行できますこと、この上もない喜びであります。厚くお礼申し上げます。

84名の卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。皆さんが手にした卒業証書はこれまでの六十年の学業を立派に修了した証です。本日、臨席がかなわなかった地域の皆様、在校生も皆さんの門出を心から祝福しています。

みなさんが、最高学年となった令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、様々な行事が中止・延期・縮小となり、皆さんの思い出作りや活躍の場が限られてしまった1年でした。

また、日常の生活、当たり前と思っていたことが、いかにありがたいものであるかを強く感じるようになった1年でもありました。

このような異例の1年を、卒業生の皆さんは明るく前向きに一生懸命に過ごしていました。できることを、できる限り取り組んでいる姿は、私が、日頃から大切にしている、「EAO笑顔・挨拶・思いやり」を身をもって実行する姿と言えました。

特に総合的な学習の時間を中心に学習を進めてきたSDGsの学習は、学校生活6年間の集大成ともいえるものでした。

地球という広い視野をもち、そこで起こっている問題について調べ、自分たちができることについて真剣に考えました。考えたことを発表する段階では、お互いの発表をよりよくするために、前のめりになって意見交換をしました。発表には周りの人々、地球の人々への思いやりや地球を守るための強いメッセージが込められていました。発表を見られた保護者の皆様は、頼もしく感じられたのではないのでしょうか。

昨日、元広島カーブ監督緒方孝市さん、捕手の石原慶幸さんの「夢教室」がありました。野球の世界で努力を重ね、頂点を極めたお二人から、中学校という人生の新しいステージに踏み出す皆さんは多くの応援のメッセージを受け取ったことと思います。

緒方さんは「夢」についてこう話されました。夢を持つことはとても大事なことで、夢はいくつあってもいいし、一つの夢がかなったら、その奥にある夢が次の夢になる。夢とは連続性があるものであり、変化するものであると。

これから中学生になり、夢中になれるものや尊敬する人との出会いがあることでしょう。学校生活の中で、自分はどんなことが好きなのか、自分は何がしたいのか、自分は何に向いているのか、と常に自分を見つめてください。そうする中で、今持っている夢がはっきりしたり、形を変えたり、新しい夢を見つけることができたりすることでしょう。その夢を実現するために、努力し続けることこれはいくつになっても大

切なことです。

保護者のみなさま、お子さまのご卒業、誠におめでとうございます。6年間でこのように大きく成長され小学校卒業という節目を迎えられましたこと、心よりお喜び申し上げます。

これから、お子さまは人生の中で最も多感な時期に入ります。楽しみが多い反面、保護者として悩まれることも多いことでしょう。しかし、皆様の深い愛情と前向きな姿がお子さんを強く勇気付けることと思います。お子さんの夢の実現の一番の応援団として、これからも大きな愛情を注いでいただきますようお願いいたします。

私たち海田東小学校教職員も、引き続き応援をまいります。

卒業生の皆さん、マツダスタジアムを真っ赤に染めたカープの応援団が、カープの勝利を後押ししたように、皆さんの周りの応援団は皆さんの夢の実現を後押ししてくれます。臆することなく様々なことにチャレンジをして、充実した中学校生活を送ってください。

輝かしい未来に羽ばたく皆さんに心からの祝福と激励のエールを贈り式辞とさせていただきます。

令和3年3月23日 海田町立海田東小学校長 石川 和明